

# OCIと過ごした二年間

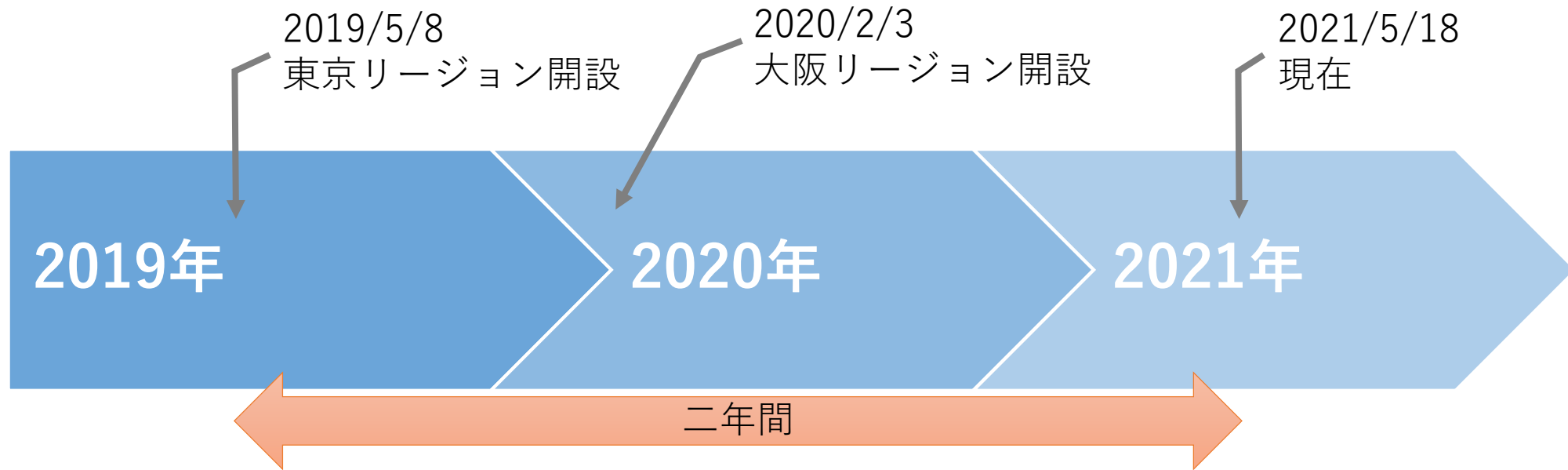
2021/5/18

# アジェンダ

- ・二年間の実績
- ・OCIの進化に伴う設計の変化
- ・OCIの進化における注意点
- ・進化を求めたいこと
- ・まとめ

# 二年間の実績

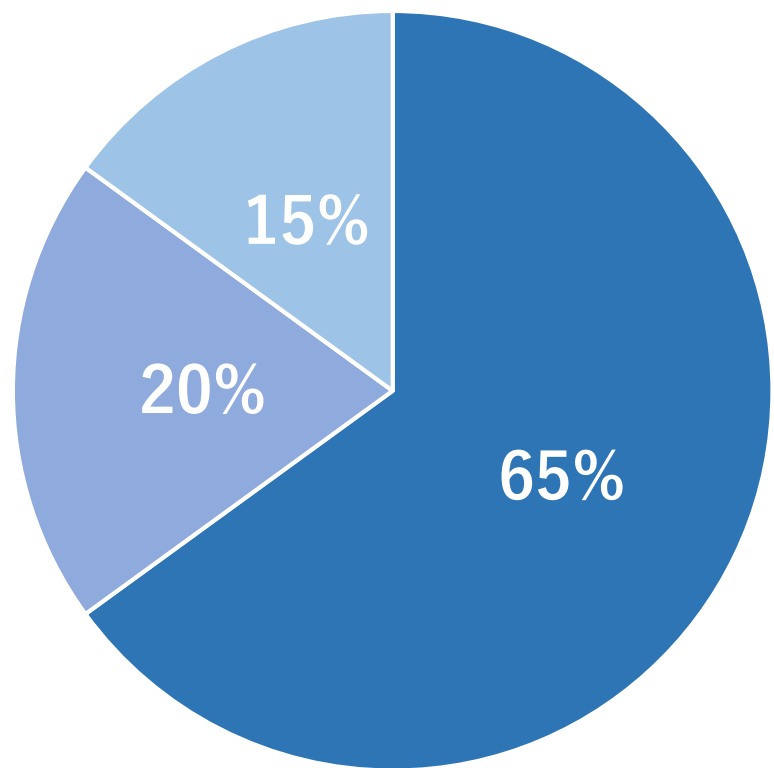
# 二年間の実績



OCI上に構築した総インスタンス数：**100 以上**  
IPsecVPN設定数：**10 以上**

# 二年間の実績

## プロジェクトの割合



- オンプレ ⇒ OCI移行
- ホスティング/クラウド ⇒ OCI移行
- OCI上に新規構築

⇒ まだまだ **オンプレからの移行**が多い状況

# OCIの進化に伴う設計の変化

# OCIの進化に伴う設計の変化

OCIの新機能がリリースされ、  
**OCIの設計方針が変わる**場合も度々ある

パターン①：作り込んでいた機能が新規にリリースされた

パターン②：運用で対応していた機能が新規にリリースされた

# OCIの進化に伴う設計の変化

パターン①：作り込んでいた機能が新規にリリースされた（1つ目）

■ ブロックボリュームのユーザ定義バックアップポリシー（2019/11/21）  
当初は「ゴールド・シルバー・ブロンズ」の3タイプのみ、時間も固定

## 【リリース前までの対応方法】

特定の時刻にバックアップを取得するにあたり、  
OCI CLIとスクリプト・OSのスケジュール実行機能を組み合わせて行っていた

※実際に「ゴールド」のタイプで設定も行っていました。

日次で7世代、週次で4世代、月次で12世代取得されており、  
バックアップ容量がとて大きくなっていました。

⇒後に**上記の新機能で世代数を減らしつつ**、設定を行いました。



# OCIの進化に伴う設計の変化

パターン①：作り込んでいた機能が新規にリリースされた（2つ目）

## ■ブロックボリュームのリージョン間の増分バックアップ（2021/2/25）

ブロックボリュームのリージョン間のフルバックアップは可能であったが、コストが大きかった

### 【リリース前までの対応方法】

ファイルのバックアップを他リージョンへ保管するにあたり、別途インスタンスを構築し、OSの機能で実現していた

※最近ですが、他のリージョンへの**ブロックボリュームの非同期レプリケーション**もできるようになりました(2021/4/6)

# OCIの進化に伴う設計の変化

パターン②：運用で対応していた機能が新規にリリースされた

## ■Computeインスタンスのシェイプ変更(2020/1/13)

【リリース前までの対応方法】

インスタンスの再構築を行う手順書を作成し、提供していた

## ■CloudShellのファイル転送(2021/3/23)

【リリース前までの対応方法】

CloudShellで出力した情報を取得するのにオブジェクトストレージへ格納したり、scpで別サーバに転送する必要があった

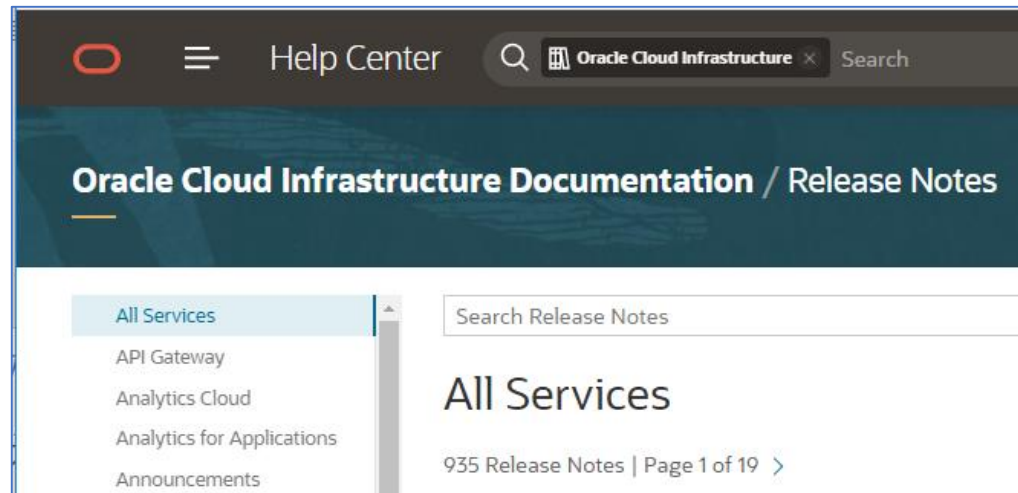
⇒ よって、設計方針は同じものを使い続けるのではなく、  
**常々アップデートが必要**と考えています。

# OCIの進化に伴う設計の変化

気が付くと便利な機能がリリースされていたりするため、  
リリースノートは要チェックです

## ■Release Notes

<https://docs.oracle.com/en-us/iaas/releasesnotes/>



## ※新機能 確認のオススメ

- ・ Oracle Cloud Infrastructure 新機能ハイライト
- ・ Oracle Cloud Infrastructure: 2021年XX月度サービス・アップデート

<https://blogs.oracle.com/oracle4engineer/4%e3%82%b5%e3%83%bc%e3%83%93%e3%82%b9%e3%83%bb%e3%82%a2%e3%83%83%e3%83%97%e3%83%87%e3%83%bc%e3%83%88>



# OCIの進化における注意点

# OCIの進化における注意点

クラウドは仕様や画面が急に変わるので注意が必要です…

## ■ CloudShellからのファイル取得で実際にあったこと

1. お客様から「CloudShell内のファイルを取得する手順を教えてください」との問合せを受ける
2. CloudShell上からCLIでオブジェクトストレージにファイルを格納する手順と他のサーバへscpでファイルを格納する手順を連携
3. お客様側で運用手順書を作成

⇒3日後、「**CloudShellのファイル転送**」の機能がリリースされていました…。  
お客様には別途 説明しておきました。



# OCIの進化における注意点

**手順書やインターネット上の情報も古い**場合がある  
(OCIの日本語マニュアルも少し古かったりする)

**極力、実画面の確認、実機検証を行う**ようにしましょう。  
ただ翌日に画面が変わる…という事もあります。  
⇒冷静に対処しましょう

※最近はアップデートが多いため、よい機能を見逃さないように  
したいと思います…。

進化を求めたいこと

# 進化を求めたいこと

残念ながら、Oracleサポートへ問い合わせた際の対応は  
まだ改善が見られない気がします…

(回答内容について、お客様から説明を依頼されることが度々ある)

しかしながら、

- ・ **Oracle Database**
- ・ **MySQL(MDS)**

の問い合わせはしっかりとした回答を頂けると思います。



まとめ

# まとめ

- ・ OCIは新機能が次々とリリースされており、  
**新機能をチェックしておく**

⇒新機能によっては

**運用工数の削減/OCIコストの削減/セキュリティの向上**

も可能であり、過去の設計も見直すとい

- ・ 設計書/手順書(ブログ等)には

**いつ時点の情報・画面であるか書いておく**

⇒後々に見た人が迷ったり、勘違いしないように

- ・ OCIのサポートには…根気強く対応する